

令和4年度
第3回入間市文化財保護審議委員会
<次 第>

日 時 令和5年3月29日(水)
午前10時～午前11時30分
会 場 博物館 会議室

1 開 会

2 挨拶

3 議 題

(1) 指定文化財の候補について〔資料1・P.1-6〕

4 報 告

(1) 旧黒須銀行復元修理事業の状況について〔資料2・P.7-20〕

(2) 新規指定文化財の指定について〔資料3・P.21-24〕

(3) その他

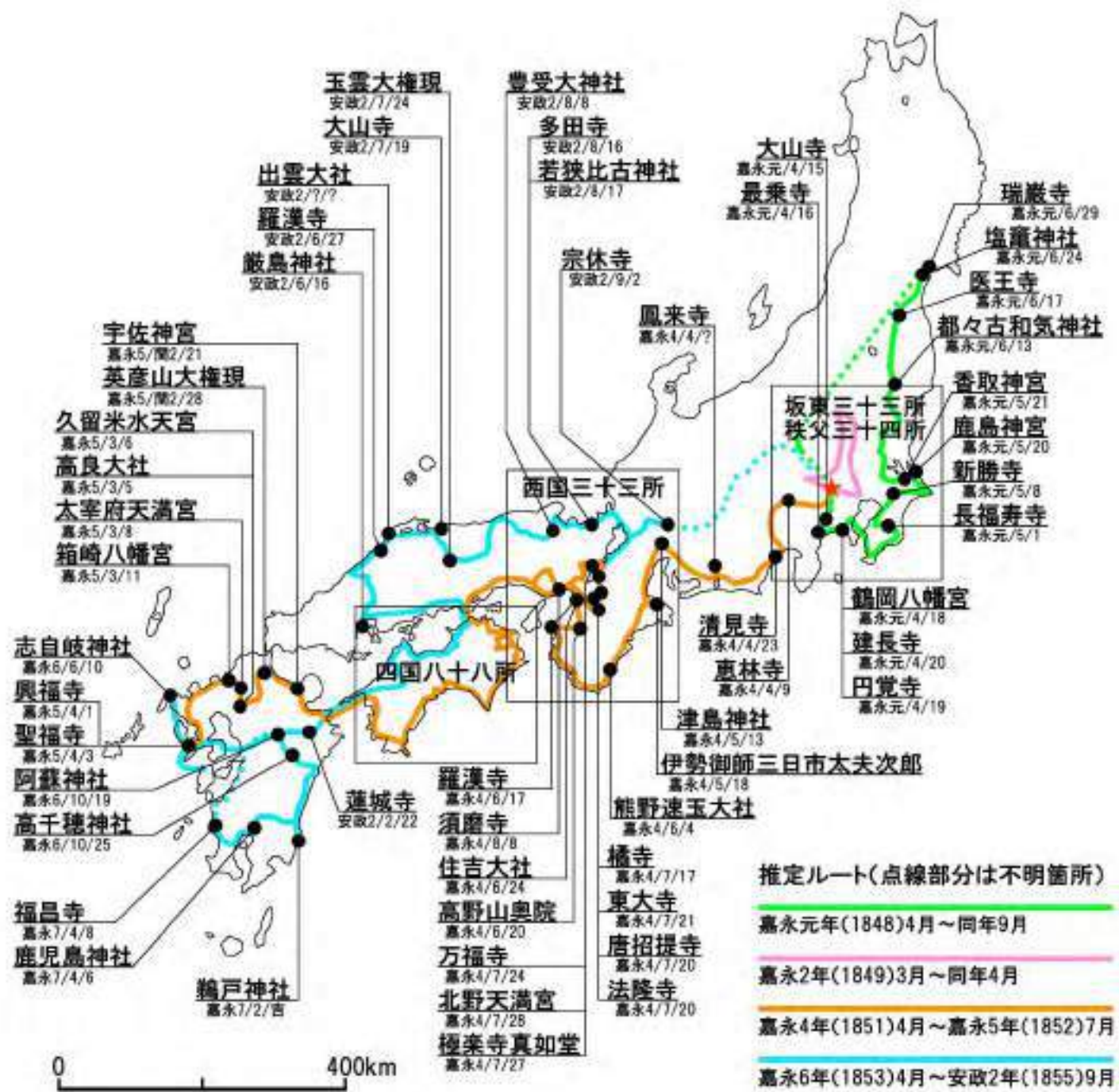
5 その他

6 閉 会

入間市指定文化財候補一覧

No.	文化財の名称	種別	数量	所在地
	所有者(管理者)氏名	由来等		
1	会田津満 <small>あいづみつみ</small> の全国巡礼関係史資料	有形文化財 (古文書)	一括	
		会田津満が寛永元年から安政2年の間に、全国の380か所以上の寺社を全国行脚巡礼した際の史資料。一般の農婦の女性一人が7年をかけて全国各地を行脚巡拝し、満願を成就させた類例はなく、入間市域の女性の身分的・社会的立場を考えるうえで重要である。		
2	狭山茶大茶樹 <small>さやまぢやうぢやうじゆ</small> (老茶樹)	天然記念物		
		中村家の初代権左衛門が、慶長年間(1596～1615)に山城国宇治地方(現京都府)から携えてきた茶種を庭先に蒔いたものから成長したと伝えられている。昭和10年代に枯死したが、現在は母樹の種子から育った茶樹が同地に現存している。		

会田津満の全国巡礼関係史資料





四国八十八か所



西国三十三か所



坂東三十三か所

嘉永元年甲申四月日
秩父領所
納経記
日本廻國

第2期納経帳(1/1)

嘉永元年戊申歳
坂東御納経
霊場
四月佛立日

第1期納経帳(2/2)

嘉永元年戊申年四月日
神社佛園并禮
納経記
日本廻國

第1期納経帳(1/2)

嘉永四年 亥年
西國 靈場 御納経
三月吉日

第3期納経帳(3/6)

嘉永四年 亥年 三月吉日
神社 佛閣 納経帳

第3期納経帳(2/6)

嘉永四年 亥年 三月吉日
神社 佛閣 御納経

第3期納経帳(1/6)



第3期納經帳(6/6)



第3期納經帳(5/6)



第3期納經帳(4/6)

願主
武藏國入部
宮寺錦山落村
市市區好
津満

津満の記銘

南豊美城關
天江十傳
該國通了
津満
津満

津満自作の和歌

奉納經
聖德皇太子
御寶前
南都
法隆寺
七月二十日
奏納

御朱印 法隆寺 嘉永4年7月20日



民間薬



頂相・菩薩護符



雷除けなどの護符



護符の入れ物



諸神社名などの護符

日本国絵図 友鳴松旭図





金毘羅山引札



万国人物図卷





会田家墓所



津満の廻国巡礼塔



納経帳(表紙)

津満自作の和歌

津満の記銘





御朱印 法隆寺 嘉永4年7月20日



護符



万国人物図巻

狭山茶大茶樹(老茶樹)











牧野富太郎博士来訪
(植物学者)



現在の狭山茶大茶樹



狭山茶大茶樹 位置図

旧黒須銀行復元修理事業の状況について

1 建物の概要

- 1 事業名：旧黒須銀行復元修理工事
- 2 所在地：入間市宮前町5番33号
- 3 築年数：明治42年（1909年）4月竣工
- 4 面積：土地813.47㎡ 建物236.02㎡（延床面積）
- 5 施設：主屋 木造土蔵造り2階建て、漆喰仕上、屋根葺瓦葺、寄棟
延べ面積 142.12㎡（1階82.63㎡ 2階59.49㎡）
付属棟 木造土蔵造り平屋建て、屋根葺瓦葺、寄棟
延べ面積 57.95㎡
増築部 木造平屋建て、塗屋、屋根葺瓦葺、切妻
延べ面積 35.95㎡
- 6 文化財：入間市指定有形文化財（建築物） 指定日：平成2年4月1日

2 復元修理の方針

■復元方針

主屋は、耐震補強を施した創建当初の姿に復元することで文化財として保存します。外装は、土蔵壁をそのまま残し、当初の黒漆喰塗りとします。また、屋根瓦は創建当初の瓦に葺き替えます。同時に棟瓦、鬼瓦等も資料を基に復元します。

付属棟は、展示スペースとして活用することから、一部を除き新仕上げとします。

増築部は、多目的トイレを含めた便益設備を整備します。

外構部分は、イベントスペースとして整備、障がい者駐車場整備やバリアフリーに配慮した導線を確認します。

■主な復元内容

外壁：土蔵壁を再利用し、黒漆喰塗りの外壁に復元
屋根：創建当時の瓦（小谷田瓦）に葺き替え、棟瓦、鬼瓦を復元
内部：出納カウンター、階段等を復元

3 事業費の積算

工事費	252,780,000円
初年度予算額	99,990,000円
2年度予算額	152,790,000円
監理業務委託料	13,651,000円

4 復元計画図



5 作業工程表 予定工期18ヶ月 【令和5年10月着手(予定) 令和7年3月完了】

月	初年度												2年度											
	令和5年度												令和6年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
準備																								
仮設工事																								
解体工事																								
掃屋工事																								
基礎工事																								
屋根工事																								
内外仕上げ工事																								
外構工事																								
電気設備工事																								
機械設備工事																								

6 復元修理後の活用

■文化財・歴史的価値を伝承

- ・土蔵造り銀行建築の貴重な現存例としての文化財的価値を伝えていきます。
- ・地域住民の相互扶助の精神を体現、地元産業への支援、地域活性化の象徴的存在であった「道徳銀行」としての歴史的価値を伝えていきます。

■「つながり」「にぎわい」の創出

- ・まちの人々がつどい、「つながり」と「にぎわい」を生む事業 ⇒ 「人と人がクロスする」
- ・人と人、世代と世代がつながりを築き、助け合える場所を提供
- ・人と人とのつながりを結ぶ「ネットワーク化」を支援 ⇒ 「世代と世代がクロスする」
- ・人とまちをつなぎ、市内の魅力的なものごと同士をつなげる事業の拠点
⇒ 「地域と地域がクロスする」

旧黒須銀行の歩んできた歴史をふまえつつ、まちを将来にわたって魅力あるものにする事業、「過去・現在・未来がクロス」する『Cross Project(クロス プロジェクト)』として進めていきます。



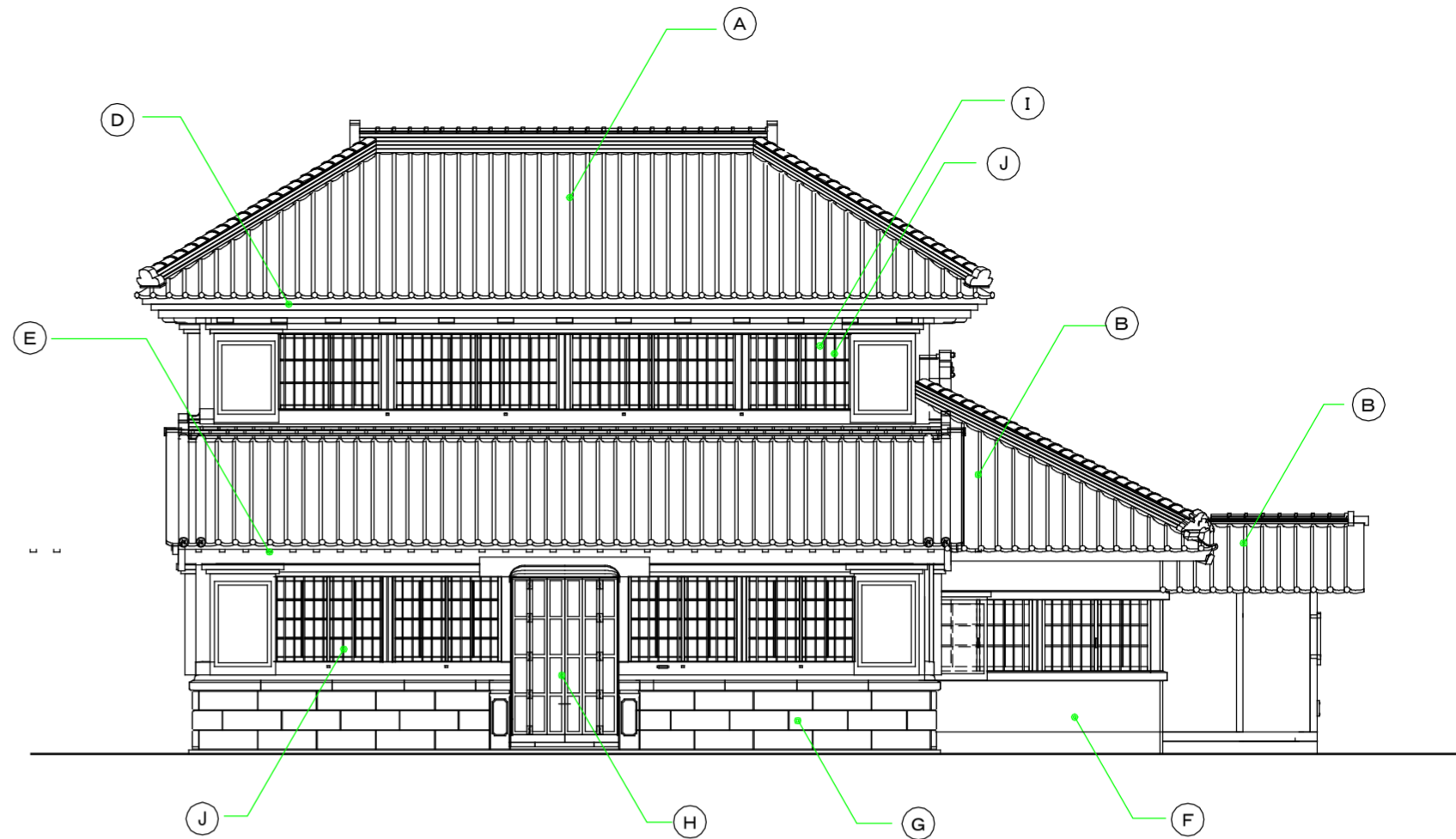
復元修理後敷地内のイメージ

※プロジェクト名の「クロス (Cross)」は、黒須という地名、複数の道が交差している建物の立地環境、人と人が交流する様子などをイメージしています。





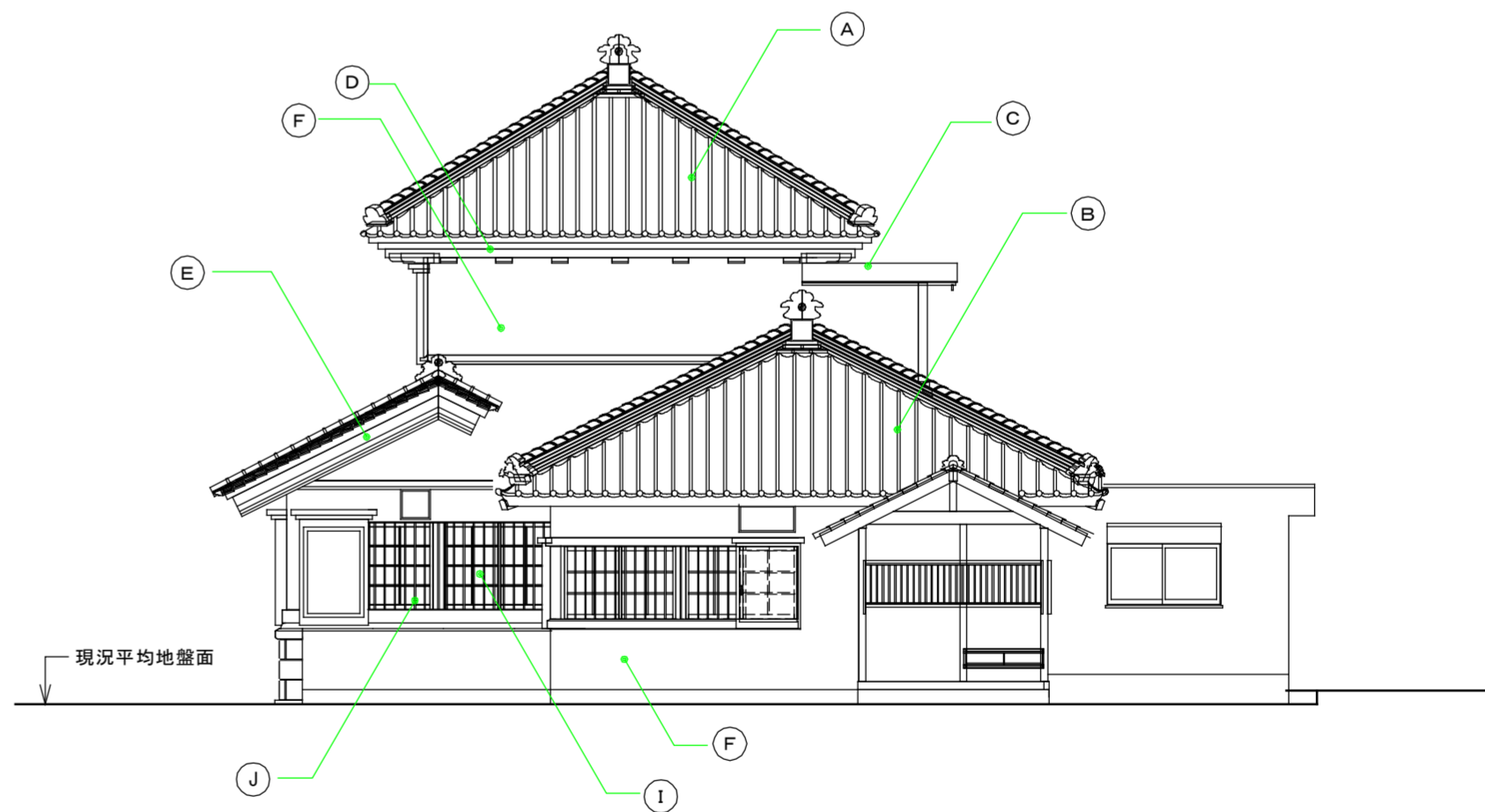
現況 東立面図 1:100



復元 東立面図 1:100

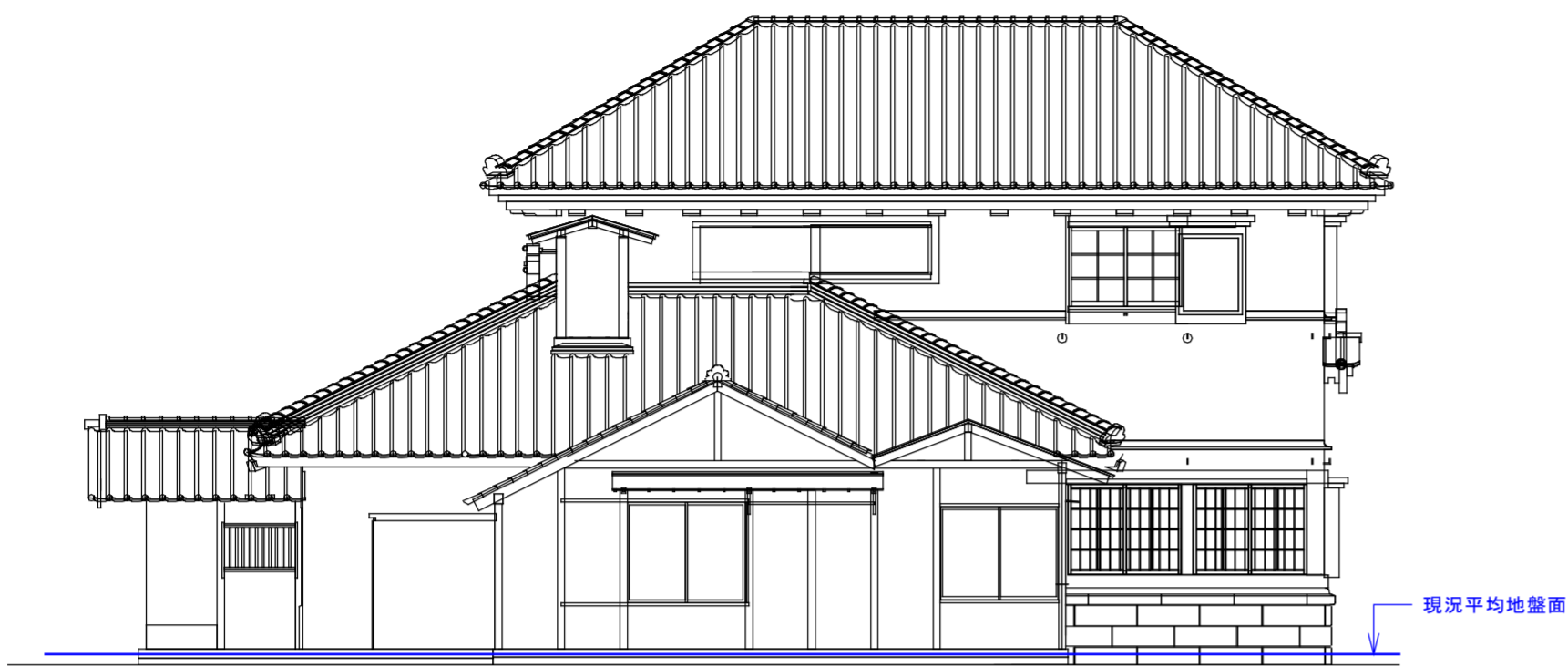


現況 北立面図 1:100

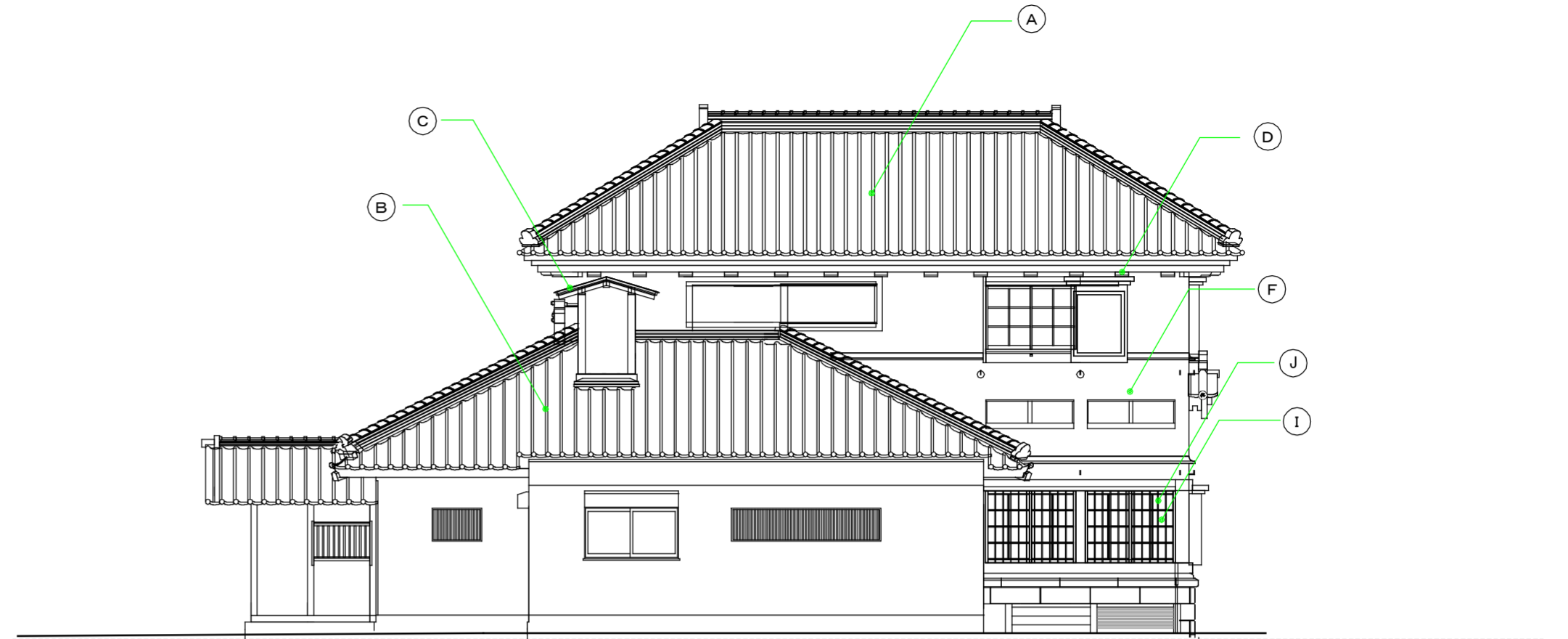


復元 北立面図 1:100

MEMO	発注者：入間市	設計事務所	工事名称	旧黒須銀行復元修理工事	作成者
			図面名称	復元 立面図-1	



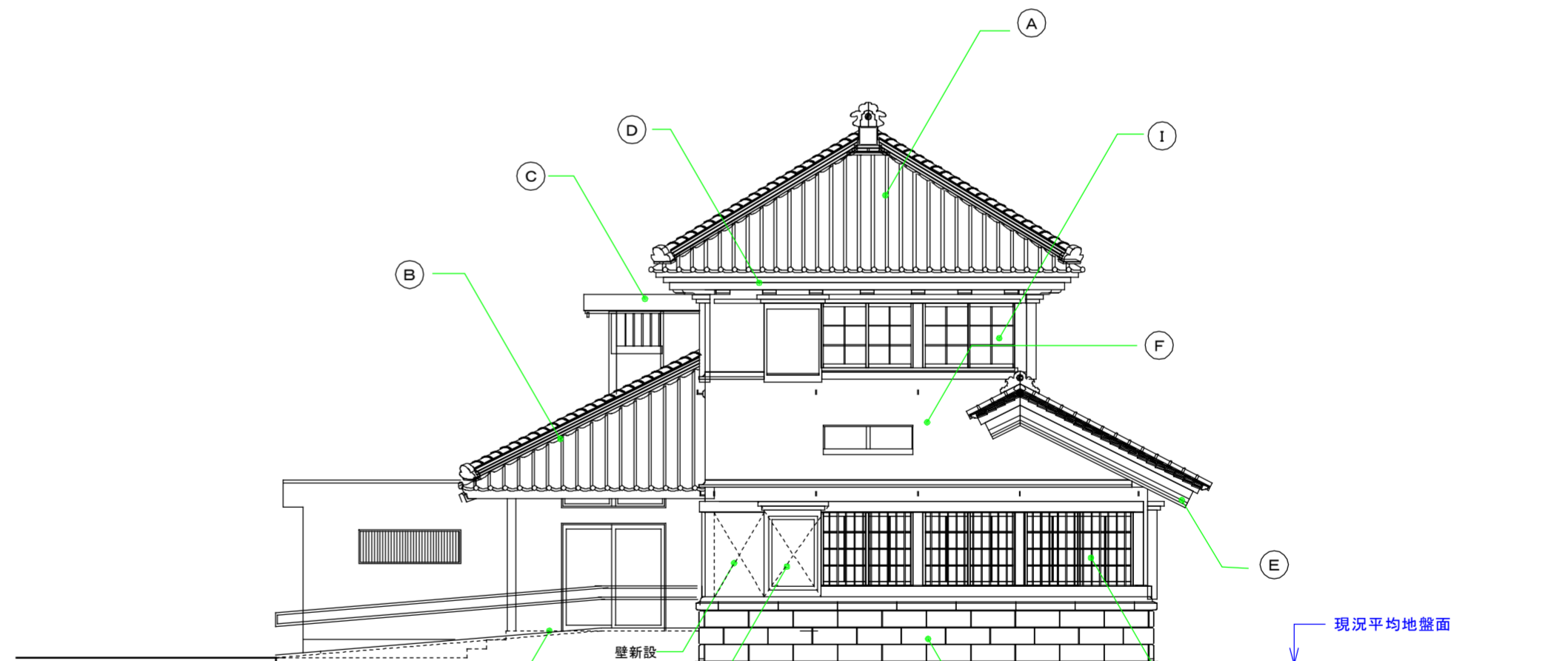
現況 西立面図 1:100



復元 西立面図 1:100



現況 南立面図 1:100



復元 南立面図 1:100

MEMO	発注者：入間市	設計事務所	工事名称	旧黒須銀行復元修理工事	作成者
			図面名称	復元 立面図-2	



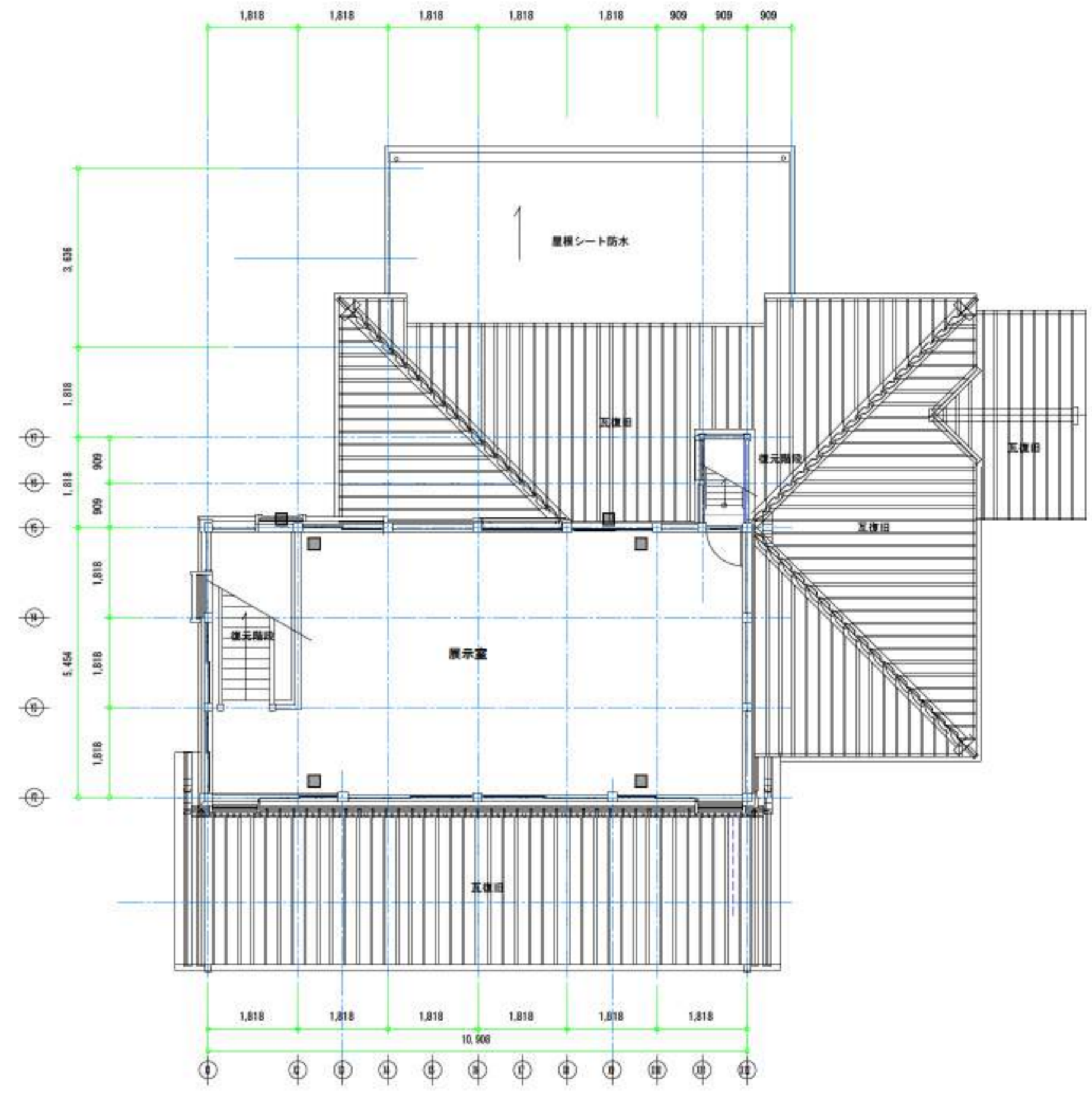
現況 1階平面図 1:100



復元 1階平面図 1:100

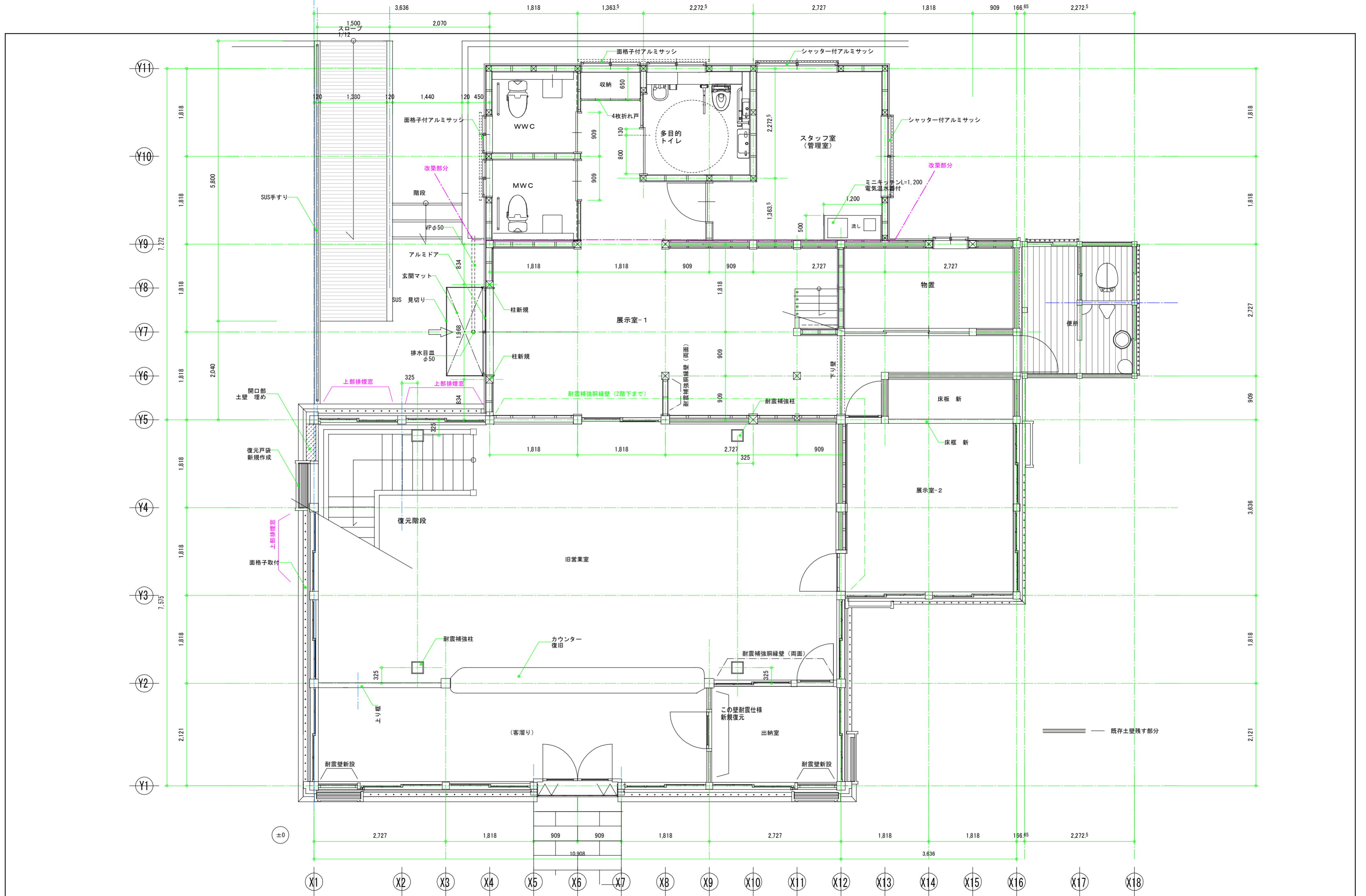
■ 耐補強鉄骨柱

MEMO	発注者：入間市	設計事務所	工事名称	旧黒須銀行復元修理工事	作成者
			図面名称	解体 1階平面図、床伏図	

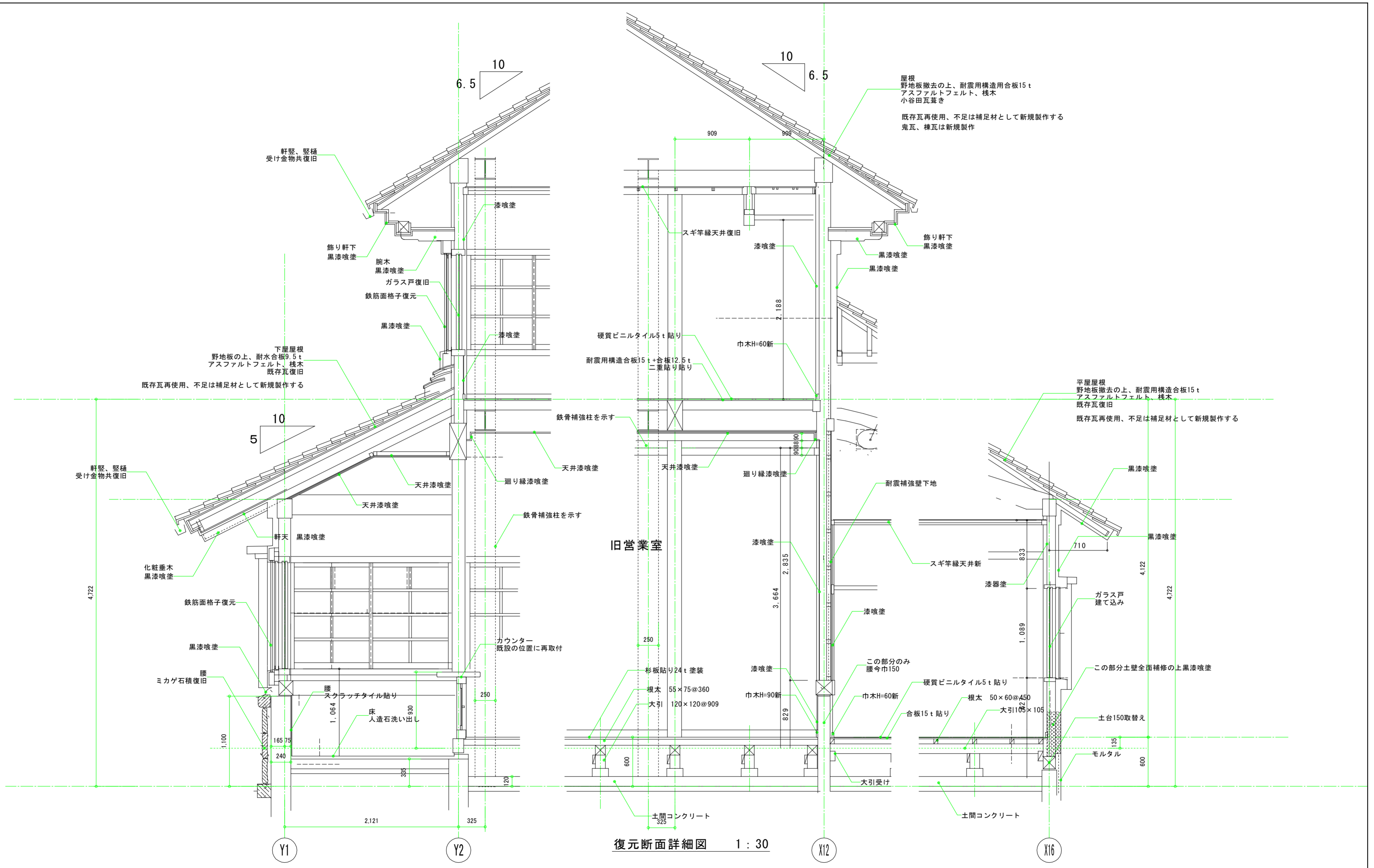


復元 2階平面図 1 : 100

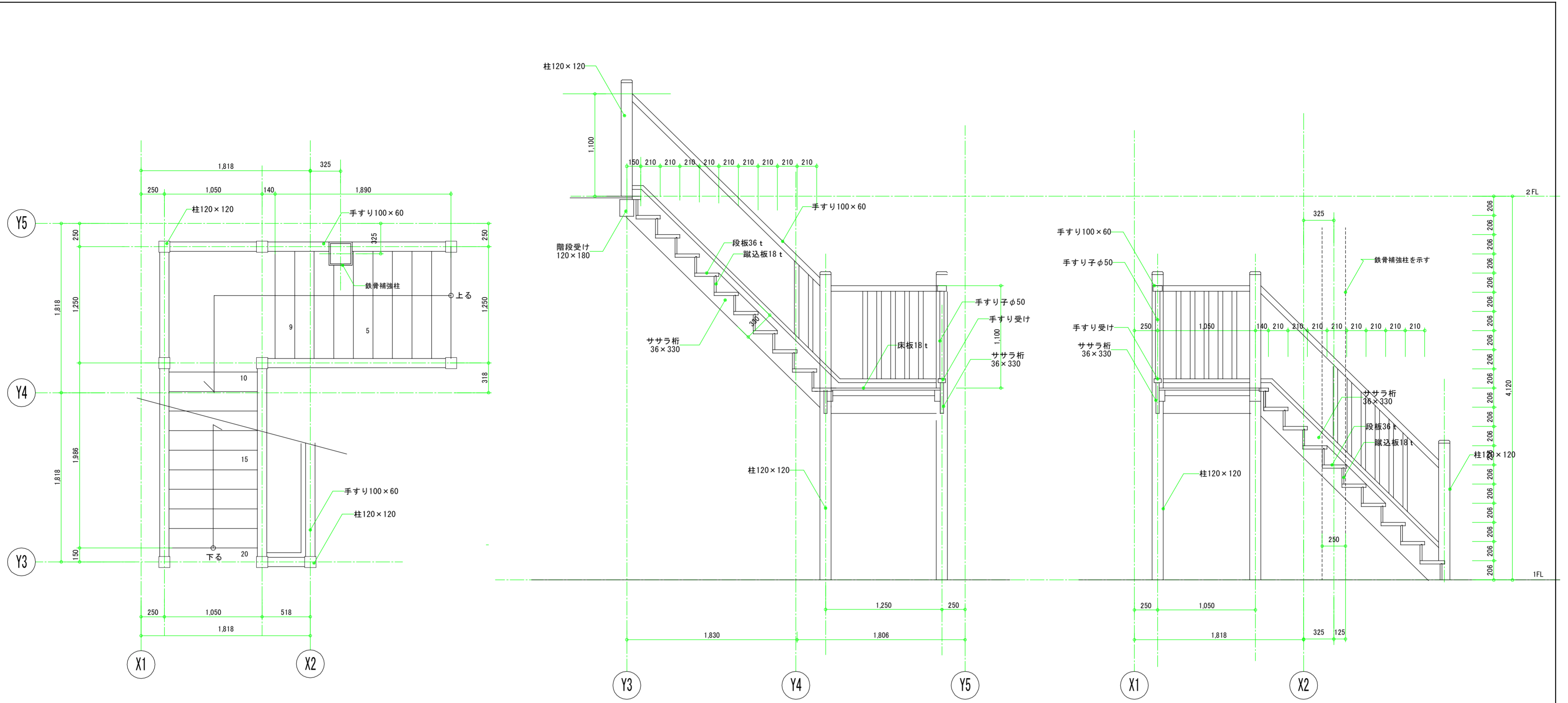
MEMO	発注者：入間市	設計事務所	工事名称	旧黒須銀行復元修理工事	作成者
			図面名称	復元 平面図	



MEMO	発注者：入間市	設計事務所	工事名称	旧黒須銀行復元修理工事	作成者
			図面名称	復元1階平面詳細図	



MEMO	発注者：入間市	設計事務所	工事名称	旧黒須銀行復元修理工事	作成者
			図面名称	復元断面詳細図	

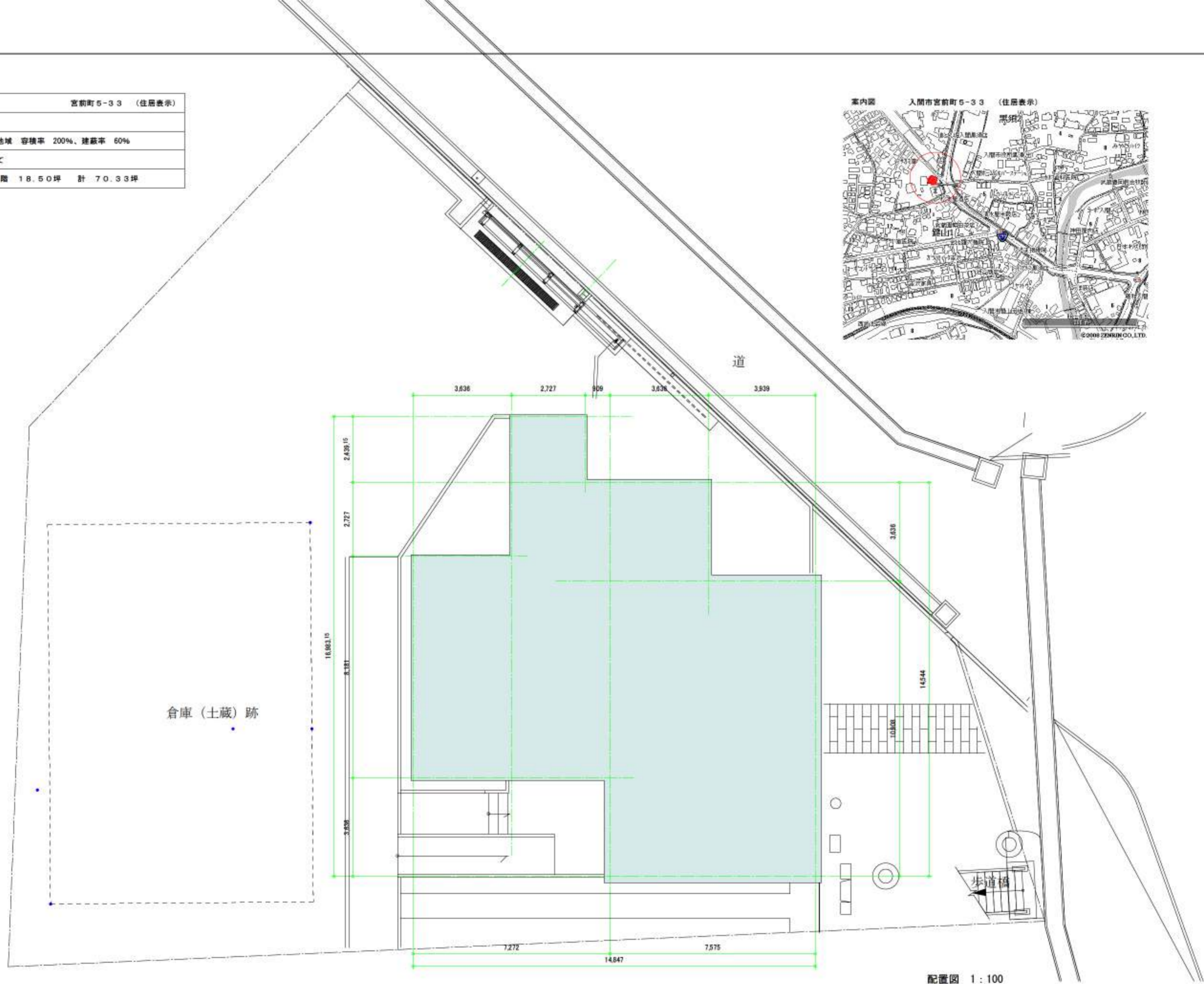


復元階段平面詳細図 1 : 30

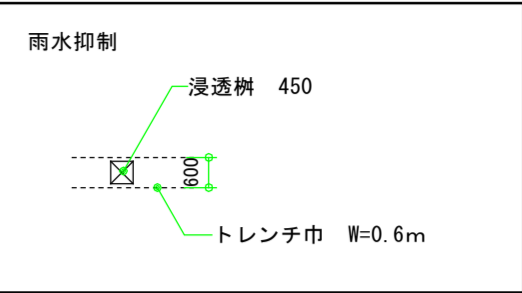
復元階段断面詳細図 1 : 30

MEMO	発注者：入間市	設計事務所	工事名称	旧黒須銀行復元修理工事	作成者
			図面名称	復元階段詳細図-1	

所在地	入間市宮前町125-1	宮前町5-33 (住居表示)
敷地面積	813.47m ²	
用途地域	市街化区域 第二種住居地域 容積率 200%、建築率 60%	
構造規模	木造(土壁造り)2階建て	
	1階 51.83坪、2階 18.50坪 計 70.33坪	



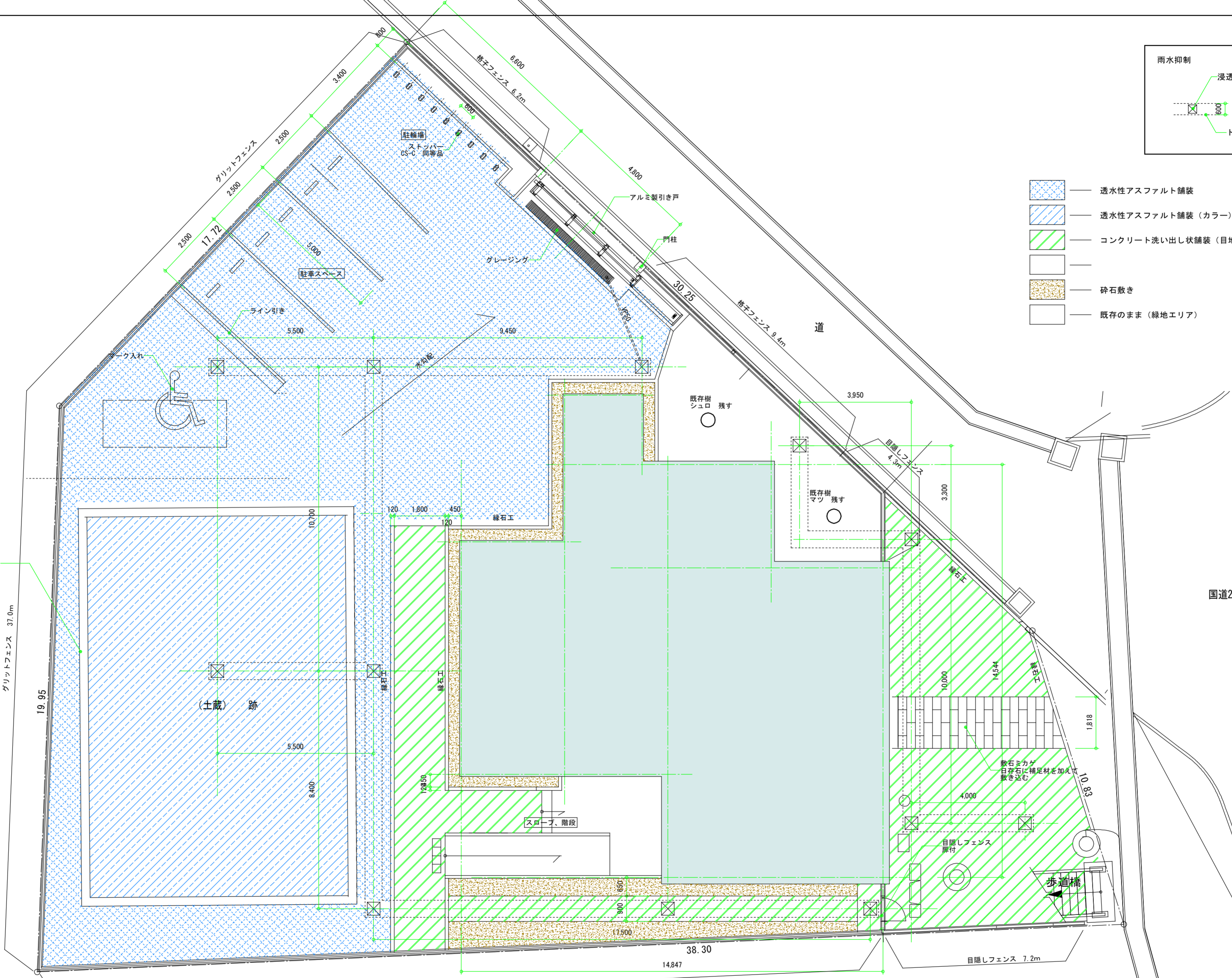
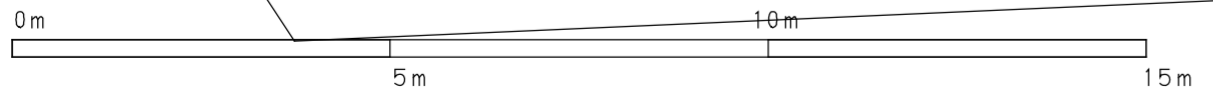
MEMO	発注者: 入間市	設計事務所	工事名称: 旧黒須銀行復元修理工事	作成者
			図面名称: 配置図	No.



- 透水性アスファルト舗装
- 透水性アスファルト舗装 (カラー)
- コンクリート洗い出し状舗装 (目地切)
- 砕石敷き
- 既存のまま (緑地エリア)

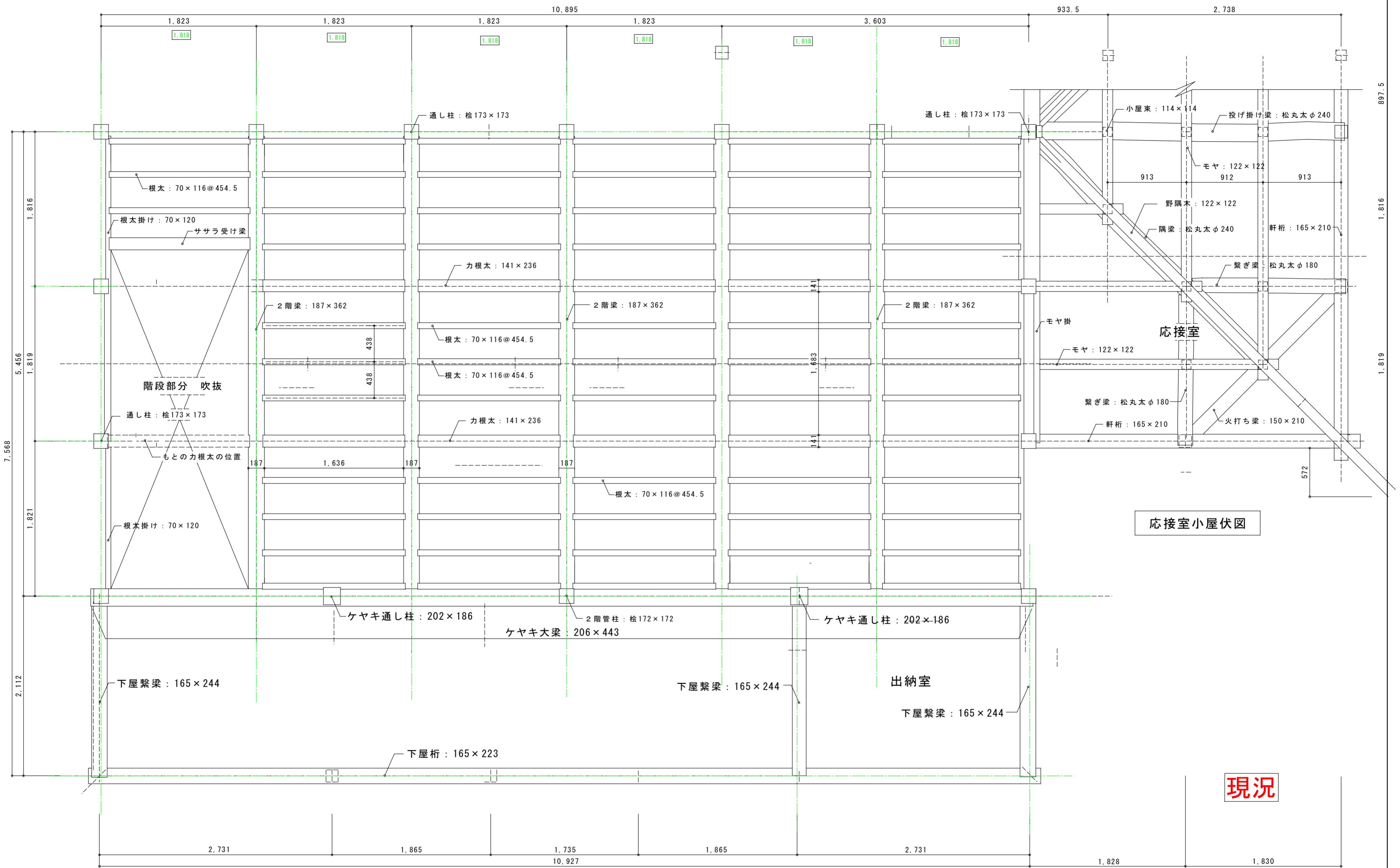


既存土蔵基礎の大谷石を
再利用して敷き直す



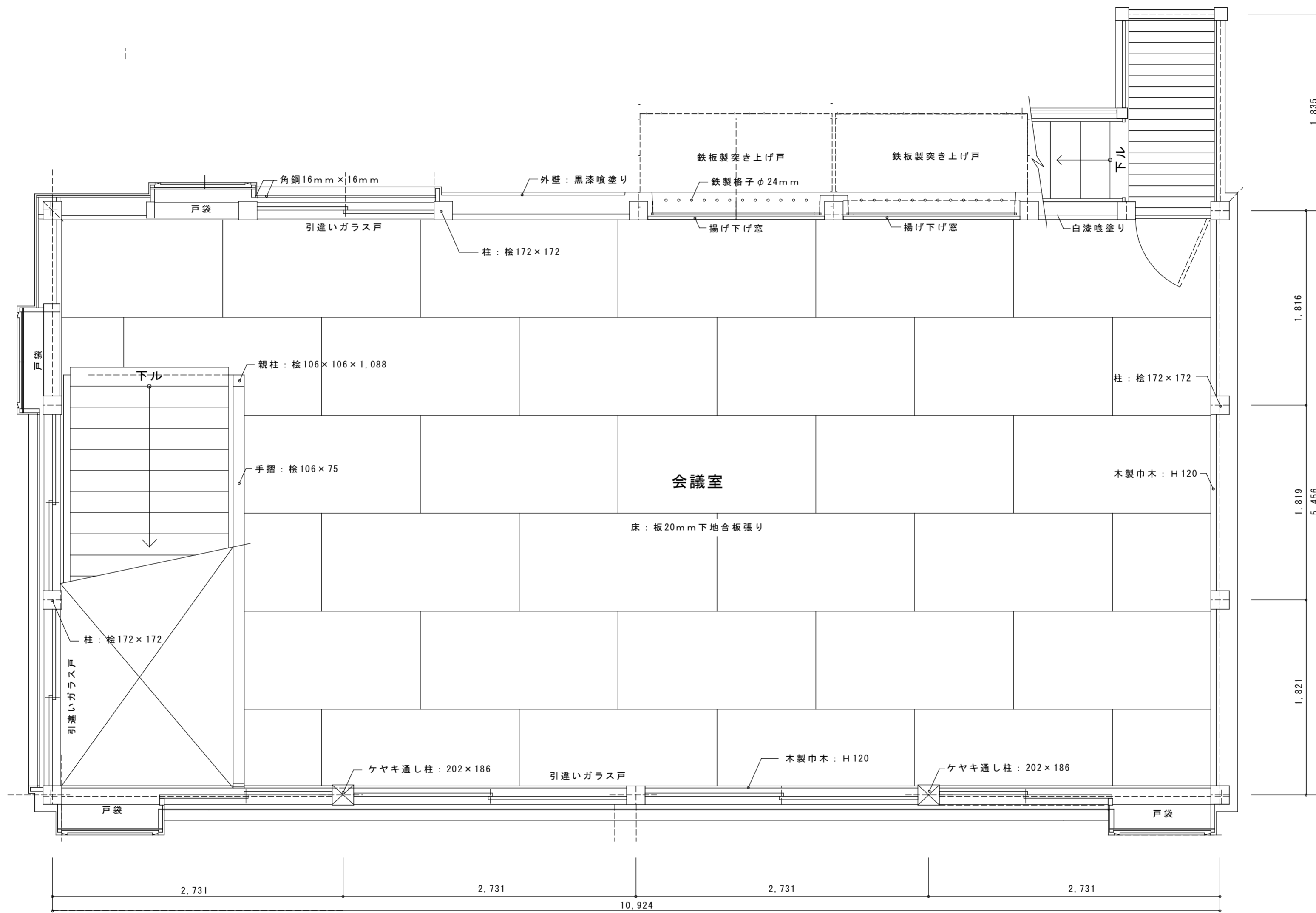
外構 平面図 1 : 100

MEMO	発注者：入間市	設計事務所	工事名称	旧黒須銀行復元修理工事	作成者
			図面名称	外構 平面図	



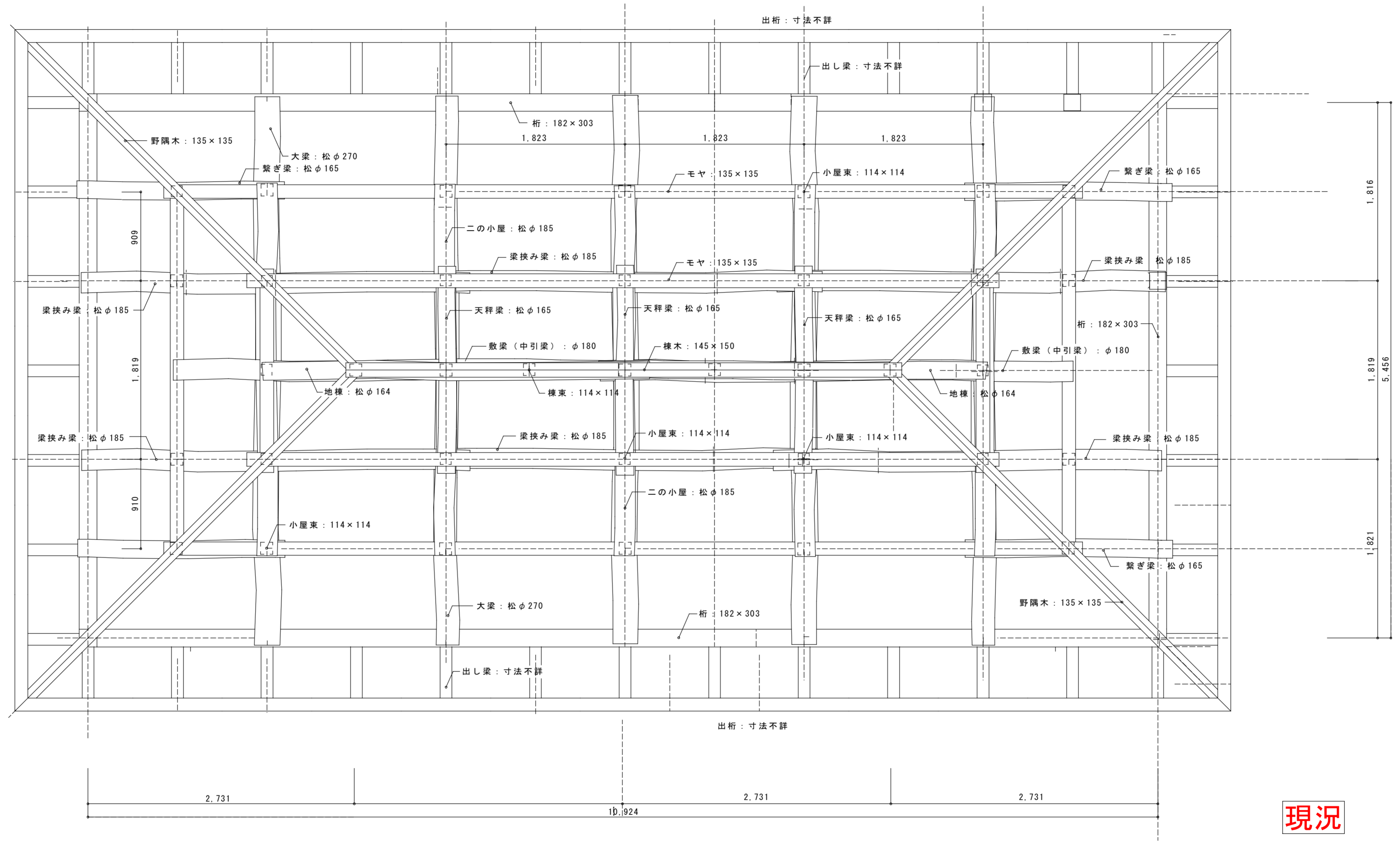
2階床伏図

MEMO	発注者：入間市	設計事務所 (有) 歴史環境研究所 一級建築士事務所 一級建築士事務所埼玉県知事登録 (3) 9789号 一級建築士大臣登録 第59901号 植草 清見	工事名称	旧黒須銀行復元修理工事基本設計	作成者
			図面名称	現況調査詳細資料-2	
			No. A - 58		



2階平面図

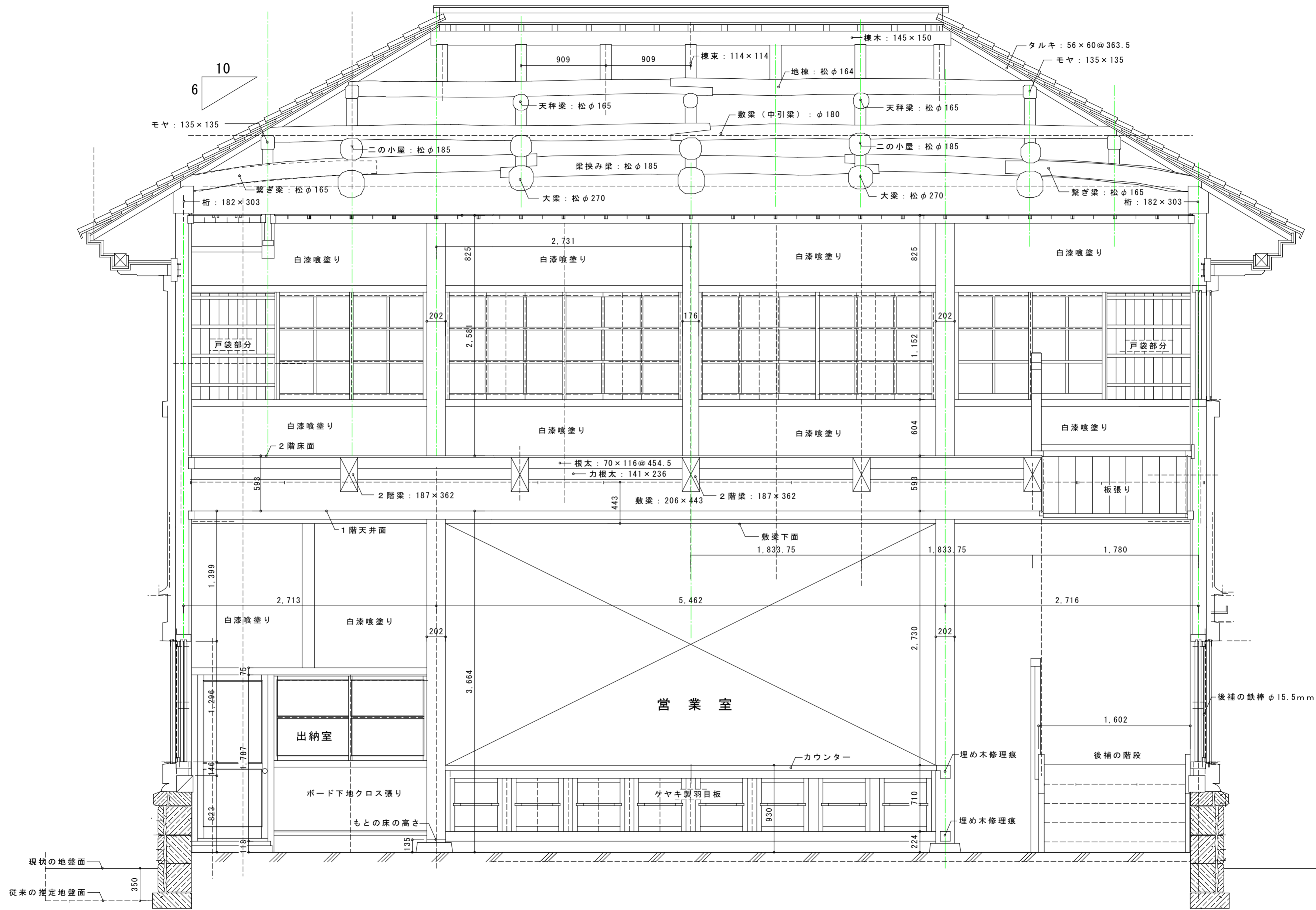
MEMO	発注者: 入間市	設計事務所 (有) 歴史環境研究所 一級建築士事務所 一級建築士事務所埼玉県知事登録(3) 9789号 一級建築士大臣登録 第59901号 植草 清見	工事名称	旧黒須銀行復元修理工事基本設計	作成者
			図面名称	現況調査詳細資料-3	
No. A - 59					



小屋伏図

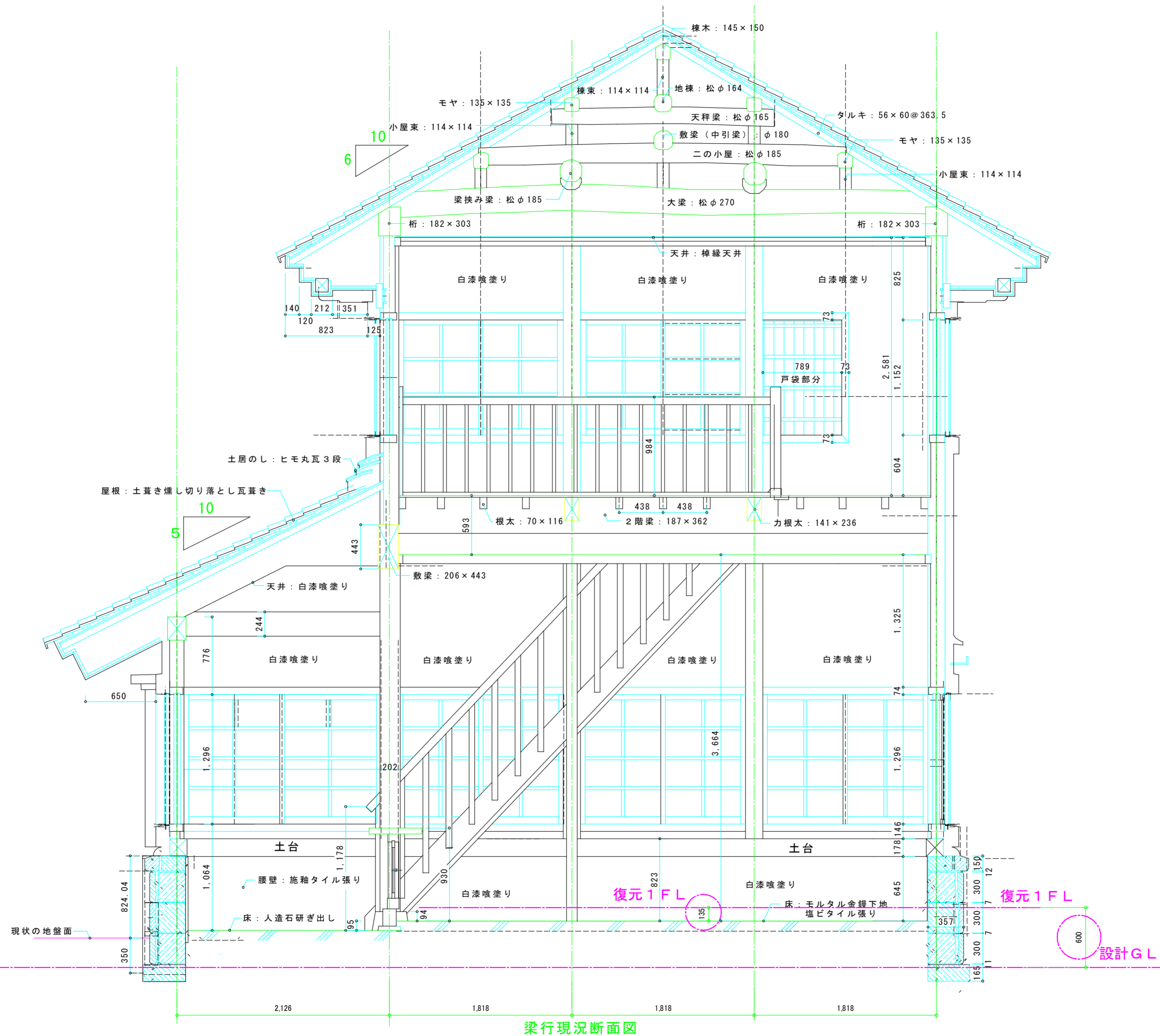
現況

MEMO	発注者：入間市	設計事務所 (有) 歴史環境研究所 一級建築士事務所 一級建築士事務所埼玉県知事登録(3) 9789号 一級建築士大臣登録 第59901号 植草 清見	工事名称	旧黒須銀行復元修理工事基本設計	作成者
			図面名称	現況調査詳細資料-4	
			No. A - 60		



桁行断面図

MEMO	発注者：入間市	設計事務所 (有) 歴史環境研究所 一級建築士事務所 一級建築士事務所埼玉県知事登録 (3) 9789号 一級建築士大臣登録 第59901号 植草 清見	工事名称	旧黒須銀行復元修理工事基本設計	作成者
			図面名称	現況調査詳細資料-5	
			No. A - 61		



梁行現況断面図

MEMO	設計事務所	(有) 歴史環境研究所 一級建築士事務所	工事名称	旧黒須銀行復元修理工事基本設計	作成者
		一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (3) 9789号 一級建築士大臣登録 第59901号 植草 清見	図面名称	現況調査詳細資料-6 縮尺	
					No. A - 62

令和4年12月16日

入間市教育委員会 様

入間市文化財保護審議委員会
委員長 鹿島 英 明



入間市指定文化財の新規指定について（答申）

このことについて、令和4年7月29日付け入博発第177号により諮問された文化財について、当委員会で審議した結果、下記の文化財については市指定文化財として保護、保存すべきものと認めます。

したがって、下記の文化財を市指定文化財に新規指定することに同意いたします。

記

1 新規に市指定文化財に指定する文化財

- ・ 古谷重松奉納祭囃子祭礼図絵馬 別記1

別記1

理由書

- (1)名称 古谷重松奉納祭囃子祭礼図絵馬
(2)員数 1面
(3)種別 有形民俗文化財
(4)所在地 入間市大字二本木100番地（入間市博物館寄託）
(5)所有者 久保稲荷神社 宮司 ■ ■ ■
(6)指定の理由

久保稲荷神社は、江戸時代から信仰が盛んで、近郷近在だけでなく江戸にも信者が広がり、社務所や境内等には奉納された多くの品々が残っている。

その一つに、「所澤植ノ宿古谷重松太鼓連中」が明治7年（1874）2月に奉納した、縦92センチ、横189センチの杉材からなる大絵馬がある。

奉納者の古谷重松（1830～91）は、幕末から明治期にかけて、所沢を中心として、その周辺特に東京都北多摩郡・南多摩郡一帯に広まった「重松流祭囃子（重松囃子）」を創始した人物として知られる。重松流祭囃子の資料としては、他地域にもいくつか知られているが、初期に属するものである。

絵馬に描かれている情景は、初午の祭礼を忠実に描写したと考えられる山車行列である。山車行列は、拍子木を打つ男性2人を先導に、手古舞装束の女性2人と木遣りを唄う男性8人、大櫛を担ぐ男性8人が続く。さらに袴に菅笠姿の旦那衆（世話人）9人の後ろには、飾り立てられた1頭の牛が山車を曳いている。山車は4つ輪形式で、腰巻は紅白青の幕が下がる。屋根は唐破風形式で、鬼板は龍の彫り物、屋根の下には「奉納御寶前稲荷宮」の提灯が並び、脇障子には「松に旭」が描かれている。屋根の上は、一本柱が立ち上がり、その上の高欄には、黒色の面を被った人形（黒式尉）が立つ。高欄の岩座には牡丹の花があしらわれ、馬簾状に青い裂が垂れ下がり、その下は綿布で飾られている。山車の周囲は、運行係である男性15人、山車の後方には荷茶屋と男性2人が従っている。また、山車の見物人として、西洋人を含めた人々が描かれ、絵馬左上方の富士山を背にした社殿へ向かい、山車行列が進んでいる様を見ることができる。山車や大櫛また全体的にどこか急拵えの様子は新興的近代的な祭りの萌芽の感じさせる。

なお、描かれている大櫛に結び付けられた16枚の短冊には、14か所の地名が記されている。これは当時重松流が伝承されていた地域（所沢市、入間市、三芳町、東村山市、清瀬市、小平市、武蔵村山市、立川市、瑞穂町）と考えられ、そのうちの1枚には「ふじさわ」と書かれている。久保稲荷神社の南方1.5キロメートルには、上藤沢連中の本境地であった神明神社がある。絵馬は、上藤沢地内から久保稲荷神社への山車行列の様子が描かれているとも推測される。

近年この絵馬は、久保稲荷神社により精細な複製が作製され、調査の過程で、いままでは分からなかった躍動的な構図と往時の美しい彩色が明らかになった。

古谷重松祭囃子奉納祭礼図絵馬は、市域にも足跡を残した重松流祭囃子の様子と、当時の祭礼風俗を知る上で貴重な資料である。

古谷重松奉納祭囃子祭礼図絵馬 状況写真



絵馬全体



- 山車行列 隊列左側（先頭）から
- ①拍子木を打ち先導する男性2人
 - ②手古舞装束の女性2人
 - ③木遣りを唄う男性8人
 - ④大櫓を担ぐ男性8人
 - ⑤袴に菅笠姿の旦那衆（世話人）9人



- ⑥飾り立てられた1頭の牛が山車を曳いている
- ⑦周りには山車の運行係の男性15人
- ⑧山車の後ろに荷茶屋と、当番の男性2人
- ⑨その周りに様々な衣装を着た見物人（西洋人も含まれる）



山車本体

4つ輪形式で、腰巻は紅白青の幕が下がり
屋根は唐破風形式で、鬼板は龍の彫り物
屋根の下には「奉納御買前稻荷宮」の提灯が並ぶ
脇障子には「松に旭」が描かれている

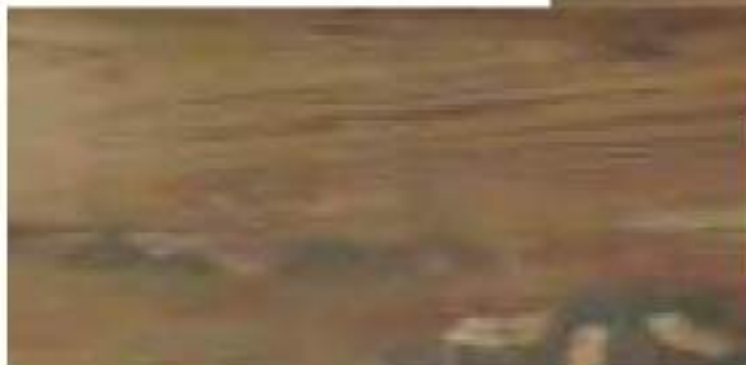
山車の屋根

一本柱が立ち上がり
高欄には黒色の面を被った人形（黒式尉）が立つ
高欄の岩座には牡丹の花、馬簾状に青い裂が垂れ下がり
その下は錦布で飾られている

大櫓に結び付けられた短冊

16枚の短冊には、当時の重松流祭囃子が伝承されていた14か所の地名が記されている

- ①山口まちや ②ほ多いぎ ③□□□□
- ④志も阿らへ ⑤み可しま志んでん
- ⑥豊こ路ざ王しんでん ⑦ふじさわ
- ⑧者きのふ ⑨きたながへ ⑩お哥ア三番ん組
- ⑪志もとめ ⑫□□□□ ⑬す奈川四番
- ⑭と能かへ戸 ⑮くめ可王 ⑯宿きよ登



行列の行き先、久保稻荷神社とその境内地、
背後には富士山が見える